

FOCUS

追いかける。大学生。

大船渡 支援プロジェクト

本格的な復興に向けて

「11えん募金」が2月11日にJR六甲道駅前（神戸市灘区）で行われた。主催団体は、大船渡支援プロジェクト。東日本大震災の被害を受けた、岩手県大船渡市赤崎町の復興を手助けしたいという学生たちが開始、神戸大を中心に87人の大学生が参加している。

被災地救う「11えん募金」

「だんだんみんなの心が東日本大震災から離れてきている」と話すのは大船渡支援プロジェクト実行委員会事務局代理の水坂洋介さん（神大・4年）。震災が発生してから毎月11日に行われてきた「11えん募金」は今回で20回目。最初の頃は、平日なら5万円から6万円、休日なら12万円から15万円が集まっていた。しかし最近の募金額は3、4万円にとどまっている。この状況の中、今回の募金では390人が協力し、7万8134円が集まった。東日本大震災の3・11と阪神・淡路大震災の1・17、2つの大震災の発生日にはくしくも「11」という数字が含まれている。復興途上にある東



「震災復興は、まだ終わっていません」

北地方と復興を遂げた神戸をつなげたいという気持ちから、そしてたとえ11円という少額からでも良いのでたくさんの人々に募金に協力してもらいたいという気持ちから名付けられた「11えん募金」。「11えん募金」を行い続けることについて水坂さんは「頭の片隅には悲惨な震災があったことを残しておいてもらいたい。募金を呼びかけること、募金をすることが震災について思い出すきっかけになってほしい」と話した。大船渡支援プロジェクト実行委員会は募金活動の他にも、実際に大船渡市赤崎町に行って町の復興に協力している。震災直後には町を埋め尽くしたがれきの撤去、津波に



被災地への熱い思いを語る水坂洋介さん

よって家屋にたまった泥の吹き出し、被災者への炊き出しなどを行った。その後も数カ月間に1度のペースで被災地に赴き、学生だからできるボランティア活動を行っている。たとえば被災者のどんな小さな要望や草むしり、皿洗いやでも手伝う「便利屋」を行った。また仮設住宅に暮らす人たち同士がコミュニケーションを取れないことに気が付き、仮設住宅地区に人々が集まれる居場所づくりを行った。作業の途中で台風が来るなどの困難もあったが、自分たちでベンチャや机、ひさしなどを手作りした。

「被災地赤崎町での本格的な復興はまだ始まってすらいらない。被災者の方の心労を考えると早く復興が完了してほしい。東日本大震災の復興はだいぶ進んでいると思っています。」

「被災地赤崎町での本格的な復興はまだ始まってすらいらない。被災者の方の心労を考えると早く復興が完了してほしい。東日本大震災の復興はだいぶ進んでいると思っています。」

大船渡支援プロジェクトに興味のある方はこちらまで
↓ofunato022@gmail.com

の方も多いたいが、まだまだそんなことはないので皆さんには今後も募金に協力してほしい」と水坂さんは話す。実際に被災地に赴き、被災者に寄り添っているからこそその思いだろう。次に大船渡支援プロジェクトが被災地赤崎町に赴くのは、3月8日から13日。震災発生からちょうど2年を迎える今年の3月11日に行われる慰霊祭や、今後の赤崎町の街づくり計画を手伝う。「被災地にとって、被災者の方々にとって、本当に貢献できることを日々模索しています」と水坂さんは力強く語った。（聞き手＝田中遼平）

UNN関西学生報道連盟

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com